

日本物理学会 2021 年秋季大会 領域 7 インフォーマルミーティング議事録

日時： 2021 年 9 月 23 日（木） 18:00 - 19:00

場所： オンライン開催

主催： 領域 7（運営委員）

+++++

議題目次

1. 学生優秀発表賞 表彰式及び受賞記念講演
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域代表、副代表の選出・承認【審議事項】
4. 次期領域運営委員の紹介
5. 次々期領域運営委員の選出・承認【審議事項】
6. メーリングリスト運用に関して
7. 概要集提出率に関して
8. 各種賞について（米沢富美子記念賞・日本物理学会論文賞）
9. 関連会議・シンポジウムの紹介
10. 次回大会について
11. 言語の英語化について【審議事項】
12. 学生優秀発表賞について【審議事項】
13. 今後の領域 7 の運営に関して【審議事項】

+++++

1. 学生優秀発表賞 表彰式及び受賞記念講演

領域代表・副代表・運営委員・次期運営委員からなる 14 名に審査を依頼し、以下の観点で審査を行った。

- 研究内容（研究の意義、新規性、妥当性）
- プレゼンテーション（ポスターの構成、伝わりやすさ、質疑応答）

その結果、13 名の候補者から以下の 3 名を受賞者として選出し、表彰式を行った。

- ◇ PSG-13 杉田 太樹さん（大阪市大工）
「1/4 充填近傍の一次元系の基底状態」
- ◇ PSG-15 高橋 統吾さん（名大工）
「三次元構造を有する大面積 NbSe₂ 薄膜の超伝導特性」
- ◇ PSG-20 土井惇太郎さん（立命館大理工）
「ラマン分光を用いた架橋ツイスト 2 層グラフェンの熱伝導測定」

受賞記念講演では杉田さん、高橋さんからは受賞の挨拶を、土井さんからはポスターを使って研究紹介をしていただいた。

2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介

領域代表：

小形 正男 先生 （東大） 【任期： 2020 年 4 月 ～ 2021 年 3 月】

領域副代表：

長谷川 達生 先生 （東大） 【任期： 2020 年 4 月 ～ 2021 年 3 月】

領域運営委員：

小林 晃人（名大院理） 【任期 2020 年 10 月 ～ 2021 年 9 月】

田縁 俊光（東大物性研） 【任期 2020 年 10 月 ～ 2021 年 9 月】

渡部 洋（立命館大総合科学技術研究機構） 【任期 2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月】

小林 拓矢（埼玉大理工） 【任期 2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月】

3. 次期現領域代表、副代表の選出・承認【審議事項】

次期代表・副代表として以下の方々を選出し、承認された。

領域代表：

長谷川 達生 先生 （東大） 【任期： 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月】

領域副代表：

佐々木 孝彦 先生 （東北大金研） 【任期： 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月】

4. 次期領域運営委員の紹介

領域運営委員：

渡部 洋（立命館大総合科学技術研究機構） 【任期 2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月】

小林 拓矢（埼玉大理工） 【任期 2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月】

橋本 顕一郎（東大新領域） 【任期 2021 年 10 月 ～ 2022 年 9 月】

明石 遼介（東大院理） 【任期 2021 年 10 月 ～ 2022 年 9 月】

5. 次々期領域運営委員の選出・承認【審議事項】

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

次々期領域運営委員：

須田 理行 （京大） 【任期 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月】

榮永 茉利 （阪大） 【任期 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月】

6. メーリングリスト運用に関して

以下の内容を周知した。

- 現在のメーリングリストの状況

アドレス数上限： 1000

登録アドレス数： 851 (2021 年 9 月 8 日現在)

(勝手ながら、講演者のアドレスは運営委員が登録しています。)

- 卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします
- なお、研究室 ML によって登録されているアドレスからは

bunyu4@r7.div.jps.or.jp, committee_r7@jps.or.jp への投稿はできません。

(投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員のメールアドレスに直接、ご連絡をお願いします)

7. 概要集提出率に関して

2021 年秋季大会における領域 7 の概要集提出率は $83/87=95.4\%$ であり、全領域中 7 番目であったことを報告した。

8. 各種賞について (米沢富美子賞・日本物理学会論文賞)

以下の 2 件の賞の募集について周知した。

- ・米沢富美子記念賞

【賞について】

米沢富美子慶應大学名誉教授は、コヒーレントポテンシャル近似や、金属絶縁体転移の理論など物理学研究に大きな足跡を残され、女性として初めての日本物理学会 会長 (第 52 期) をお務めになり、更に「女性科学者に明るい未来をの会」会長として女性科学者の支援にもご尽力されました。日本物理学会では、米沢富美子氏のこれまでの業績を記念し、女性会員の物理学分野における活動を讃え、奨励するため、日本物理学会 米沢富美子記念賞を設立いたしました。

【受賞の対象者】

日本物理学会の女性会員で、2020 年 10 月末日において博士またはそれに相当する学位取得後 15 年以内、あるいは学位未取得の場合は 45 歳以下の方。諸事情により物理分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮いたします。

【評価の対象】

米沢富美子記念賞 (以下、本賞) の選考においては、研究業績、物理学教育活動、本会活動への貢献、その他物理学分野の発展に関わる社会的活動などの業績一般を評価対象といたします。

本賞は、本会が授賞する他の賞からは全く独立です。

【応募方法・提出先について】

募集要項などの記載がございます日本物理学会 web site

(<https://www.jps.or.jp/activities/awards/yonezawa.php>)をご参照ください。

【募集締め切り】

領域7 締め切り 2021 年 11 月 21 日（日）必着

・日本物理学会第 25 回論文賞

【表彰対象論文】

原則として表彰年度の前年 6 月から遡って 10 年以内に「Journal of the Physical Society of Japan」（Supplement を含む）、「Progress of Theoretical and Experimental Physics」（その前身 Progress of Theoretical Physics とその Supplement を含む）及び「JPS Conference Proceedings」に発表された原著論文が対象。詳細は 論文賞規定を参照。

【推薦書類】

領域7 web site からダウンロードが可能。

領域7 メーリングリストに推薦書類を送付済み。

【募集締め切り】

領域7 締め切り 2021 年 10 月 12 日（火）必着

【推薦書類提出先】

領域7 代表 小形 正男、副代表 長谷川 達生

9. 関連国際会議・シンポジウムの紹介

以下の 1 件について紹介した。

- 1). 2021 年度物性研究所短期研究会「分子性固体研究の拡がり：新物質と新現象」

<https://yamashita.issp.u-tokyo.ac.jp/tanki211201/>

10. 次回大会について

次回年次大会について以下の内容を周知した。

岡山大学（津島キャンパス）、岡山理科大学（岡山キャンパス）

期日： 2022 年 3 月 15 日(火)～18 日(金)

（※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては開催方法等が変更になる可能性があります。最新の情報は大会ホームページでご確認ください。）

11. 言語の英語化について 【審議事項】

【これまでの経緯】

- 2019 年秋季大会のインフォーマルミーティングにおいて、留学生や外国人研究者の物理学会参加を促進するために、シンポジウム講演の言語の英語化が議論された。審議の結果、シンポジウム講演の英語化に関して、領域委員会において領域 7 より提案することになった。
- 領域委員会に提案した結果、「英語化」について領域 7 における意見聴取を行い、次回領域委員会で審議することが決定された。
- 2020 年秋季大会インフォーマルミーティングにおいて、下記 2 点を提案し、それぞれ意見を聴取した。

(1) 企画提案（招待講演、シンポジウム等）は、英語で行うことを推奨する

【意見】

- M1 にとっては英語の発表は難しそう。
- 企画提案については、初学者の理解を進めるという趣旨に反する懸念がある。

(2) 企画提案、一般講演のスライドは英語を推奨する。

【意見】

- 発表が日本語であっても、スライドが英語だと外国人の方にとっては理解しやすい。

これらの意見を踏まえ、領域代表・副代表・運営委員で協議し、その内容が領域委員会に諮られた。

- 2021 年年次大会のインフォーマルミーティングにおいて、岡田先生（領域代表（当時））から領域委員会での英語対応に対する協議結果について下記が報告された。
 - 初学者にとって敷居が高くなるなどの理由で他の領域では英語化反対の意見が多い。
 - その後各領域で引き続き英語化について審議するよう要請があった。
- この協議結果に加えて、昨今留学生が増える傾向にあり、これにより物理学会での発表が減ってしまう懸念がある現状を鑑み、2021 年年次大会のインフォーマルミーティングにおいて下記を提案し、意見を聴取した。

【提案】

- 領域 7 の独自の英語化対応として「発表スライドを英語で作成するよう協力をお願いする（発表自体は日本語）」。
- 次のステップにつながる“実験”となるよう、次回秋季大会で発表スライドの英語化をお願いし、その後教員、学生、留学生を対象にアンケートを実施し、広く意見を聴取する。

【意見】

- スライドの英語化には賛成だが、もし実施する場合は事前に周知することを徹底した方がよい。メーリングリストだけでなく、関係者（留学生を抱える研究室）にメールを直接送ることや、学会のホームページやプログラム、または申し込みの際に英語化対応に関する情報を明記することが考えられる。
- 年次大会と秋季大会でどちらかは英語を推奨することも考えられる。
- 学生にとって英語は敷居が高いが、スライドだけ英語にするのは英語化導入の最初のステップとして丁度良く、教育的である。
- 全て英語スライドにしてしまうと学生だけでなく、異なる分野の方々に対しても難しく感じさせてしまう懸念があるので、「日本語でキーワードを入れる」など適宜工夫が必要。

【今大会】

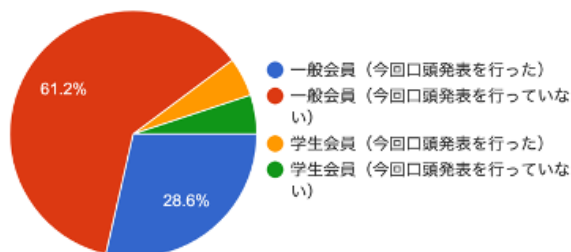
- 以上の経緯を踏まえ、2021 年秋季大会においては、領域 7 の口頭発表において、発表言語は日本語のまま、【発表スライドの基本言語を英語とし、キーワードには適宜日本語を付記する】形を推奨した。
この内容は 5 月末の講演申し込み前と 9 月初旬の大会前の 2 回メーリングリストを通して周知した。
- 次のステップにつながる実験となるよう、大会期間を通してこの取り組みに対するアンケートを行い、今秋季大会のインフォーマルミーティングで結果を公表し、議論した。

【アンケート結果】

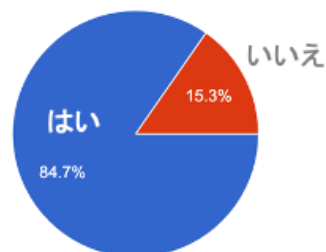
秋季大会期間中（9 月 20 日(月)から 9 月 23 日(木)13 時まで）に行なったアンケート (Google フォーム利用)について、次に示す集計結果を報告した。

回答者

98件の回答

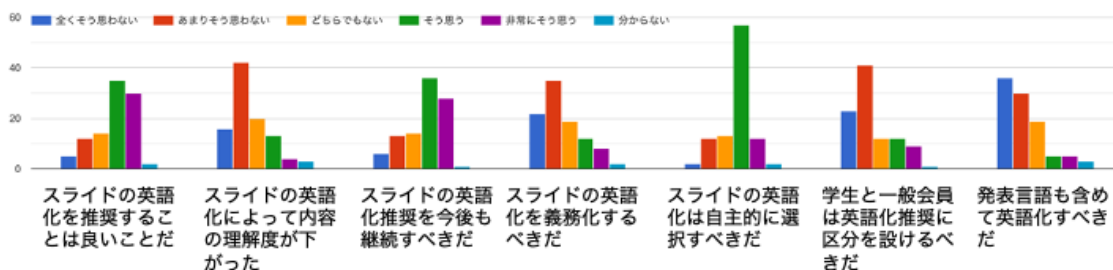


スライドの英語化が推奨されることを知っていましたか



選択式

全くそう思わない あまりそう思わない どちらでもない そう思う 非常にそう思う 分からない



自由記述

35件の回答（一部抜粋）

スライド英語化”推奨”+日本語での質疑応答

最も多かった意見

- 推奨するが義務ではなく、書きにくい、もしくは伝わりにくいならば日本語も可、くらいでよいと思います。
- 今回ドイツの物理学会の発表が日本の物理学会会員に開放されましたが、同様のケースを想定すると英語にしておくことで聴衆との議論の活発化と日本物理学会の立ち位置の向上が見込めると思います。ただし、日本語でしっかり議論したほうが学生にとってはよい場合も多いので、**発表言語はある程度ハイブリッドが良いか**と思います。**スライドは英語で必要に応じて日本語併記**でよいかと思います。
- 国内の研究者で日本語にハンディを持っている人の人口は増えているので、**スライドの英語化はJPSを世界的に影響力のある学会**するためにも**良いこと**と思う。

発表言語も含めて英語化+日本語質疑応答

- 講演を英語化しても質疑応答などは、議論を活発にするためには、日本語でもOKとすべきだと思います。しかし、**本編の発表は、基本、すべて英語**にして、広くアジア、オセアニア諸国初め世界からの研究者の参加者、講演者を集めるべきだと思います、英語開催物理学会は年1回の開催にして。ドイツ物理学会がこの30年で、どのように国際化したかも見習うべきです。

英語化に反対

- 大学院進学時点でToeicが500点台という学生が主要層である地方大では、大変厳しい。
- 学生のことを考えると、日本語で論理立ててスライドを作成する練習をした方が良いと思う
- 国際会議ではないので日本語のままで良いと思います。

【審議事項】

- 次回大会も英語化を推奨する提案を行い、是非を議論した。

【質疑及び意見】

- 他領域についてはどうなっているのか？
小形先生(領域代表)から領域委員会での議論について説明があり、他領域では強行に反対する領域もあり、領域7は先端を走っていることが報告された。
- 学生さんが嫌がることはあるのか？
ポスターの場合ではあるが、英語を苦手とする学生は嫌がっているかもしれない。博士課程に進む優秀な学生は問題ないと思うが、英語推奨だと口頭からポスターに逃げてしまう恐れがあるという意見が出た。
- 義務ではない英語“推奨”は良いという意見。
アンケート結果を見ても今の推奨の形に賛同していると思う。東大理工の応用物理学輪講では10人に1人ぐらい英語で話してくれる。一方で応用物理学輪講では内容を理解してもらうべきで英語のレッスンではないという学生の意見がある。学生によって意見が異なるので推奨という形が良いと思う。
- 逆に日本語の分かりやすさは大事なのではないかという意見。
スライドのめくりが早い発表の場合でも、漢字があることで追いつきやすくなる。理解度を深める目的ではスライドを日本語にしたほうが良いのではないか。
- 外国人が物理学会に参加したくないと感じると思う。発表件数が減っている現状で、外国人留学生や研究者に参加してもらいたければ英語化は必須かと思う。
- 推奨が良いと思う。初めから英語化が標準であれば準備できると思うので、英語化推奨に賛成。英語スライドであれば直前までスライド作りをする事態にはならなくて良いのではないか。一方、ポスターに関しては日本語であれば良いと思う。
- 留学生の割合の実態調査をしてはどうか。それによって対応を機動的に変えていくと良い。Zoomの参加者リストの印象では10%弱。
また、留学生にも分かるように英語でもアンケートをとる。

【次回 2022 年年次大会に向けて】

アンケート結果を踏まえて、次回大会も引き続き英語化を推奨する方針を決定した。英語でもアンケートをとることを検討する。

12. 学生優秀発表賞について 【審議事項】

【これまでの経緯】

- 2016 年秋季大会から大学生・大学院生等を対象とした 優秀ポスター賞の表彰を実施。
【目的】：学生優秀発表賞を設けることで、領域 7 における大学院生の発表数増加、議論・情報交換の活性化を目指す。
- 2018 年秋季大会から物理学会の正式な賞となり、「学生優秀発表賞」と名称が変更。
- 2019 年年次大会から年 2 回ポスター発表のみ審査対象。
- 学会発表申込時に申請した者に対して審査を実施。
- 2019 年度ポスター発表を受けて、その後の方針を検討するために 以下のような 2 度のアンケートが実施された。
 - 1 回目： 学生賞の審査員に、審査後にアンケートを依頼
 - 2 回目： 事前に領域 ML にて、関係者にアンケートを依頼
- 第 75 回年次大会（2020 年）の現地開催中止後、アンケート結果が領域 7 Web 上で紹介された。
- その後、領域代表・副代表・運営委員でアンケート結果を協議し、以下の二つの意見に集約した。
 - 1. 審査のやりやすさという点から口頭発表よりもポスター発表に利点があるという意見が多数派である。
 - 2. 一方で質の高い研究発表は口頭で多くの人に聞いてもらった方が良いという意見も多い。
- 2020 年秋季大会では、引き続きポスター発表に対して審査を行い、受賞者には次の年次大会で記念講演を行うことが提案され、多くの賛成意見が上がった。
- 2021 年年次大会のインフォーマルミーティングでは口頭発表に対する審査の可能性を協議した上で、公平性の観点からポスター審査を継続することを提案した。
これに対し、口頭発表に対する審査方法を引き続き検討するよう意見が出された。
例として、審査対象の発表を一つのセッションにまとめる方法が提案された。
- 同 2021 年年次大会（オンライン）では賛成意見の多かった受賞記念講演を初めて行った。
大会初日午後(15:15-17:00)にポスターコアタイムを設け、その時間内に審査員がコメント機能（大会側が準備した機能）を使って質疑を行った。審査員自身及び他の参加者が行った質問に対する発表者の回答を参考に審査を行った。
その後集計結果を 18:00 から行った懇親会において審査員間で協議し、受賞者を決定した。受賞者には受賞記念講演の機会が大会 4 日目のインフォーマルミーティング内で与えられることを当日中に通知した。

受賞者2名は受賞記念講演に応じてくださったため、表彰式直後に10分以内を目安に講演していただいた。（内1名は当日の参加が難しかったため、収録したビデオを流した。）

事前の取り決めにより、この講演に対する質疑は行われなかった。

この取り組みに対して、受賞者、聴衆、指導教員いずれからも概ね高い評価を得た。課題として、受賞通知から記念講演までの準備期間が短いことが指摘されたため、学生優秀発表賞の募集時（5月末の講演申込時）と大会2週間程度前にメーリングリストで受賞記念講演について周知した。また、審査対象の発表者には別途直接メールを送って周知した。

【今大会】

- 審査対象を今後もポスター発表に限定するか、あるいは口頭発表に対する審査を行うか、継続審議する。
- 口頭発表を審査対象にする場合、審査方法をどうするか、受賞記念講演は継続するのか検討する。
- ポスター発表を審査対象にする場合、2021年秋季大会では審査用のコアタイム（1日目午後）と一般のポスター発表のコアタイム（3日目午後）は別枠として設けたが、次回年次大会も同じ方針で進めて良いか審議する。

別枠で審査する方針とした経緯は次のようなものである。

一般のポスター発表に対して、大会運営側によってコアタイムが設定されること、発表者毎にZoomのブレイクアウトルームを割り当てて口頭で発表する形式が採用される方針であることが6月初旬に大会運営側から通知された。その後各領域運営委員へのアンケート結果をもとに、全領域統一のポスター発表コアタイムが3日目午後に固定されることが決定された。領域代表・副代表・運営委員の協議の結果、今回は大会統一のコアタイムと審査のコアタイムを分けることにした。理由として、まずブレイクアウトルームを使った審査ではルームに参加している時間内で交わされた質疑応答しか見ることができないためルームを離れている時間に行われる（行われた）他の審査員および参加者の質疑応答の内容を参考にして審査することは難しいことが挙げられた。また、ブレイクアウトルームで審査に運用面の問題がないのか不明であることため今回の導入はリスクであることも挙げられた。

また、受賞記念講演を依頼するためには審査結果は初日に決定する必要があるため、今回のように3日目にコアタイムが設定された場合は4日目に予定される受賞記念講演までの準備時間が短く、受賞者の負担となってしまう。

一方、大会統一のコアタイムに審査する方法は審査対象の学生にとってコアタイムが2回あるという二度手間をなくすることができるというメリットもある。ブレイクアウトルームを使った質疑応答によるメリット・デメリットが洗い出された上では

あるが、オンサイトの審査を単に Zoom に移植しただけの形式となると想定されるため、工夫次第では運用可能と考えられる。

【審議事項】

- 審査対象を今後もポスター発表に限定するか、口頭発表に対する審査を大なうか、引き続き議論した。
- 学生優秀発表賞のためのコアタイムを学会が設定したポスターコアタイムと分離して設けたが、今後も分離するか、それとも統一するか議論した。
- 受賞者記念講演について、継続して開催して良いか諮った。

【意見】

- 審査員の立場からの意見として、コアタイムを分離したことで審査はしやすかった。これについてもアンケートをしてはどうか。
- 審査される側の意見として今回の受賞者に意見を伺い、今回の形式でそれほど負担は感じなかったとの意見をいただいた。
- 指導教員の立場から見た意見として、テキストでの返信は同時にいくつも来るのに対応しなければならないのが大変だったように見えた。また、システムのタイムラグも問題としてあった。しかし、分離すること自体は良いと思う。Zoom での応答はオンサイトと同じであり自然だと思うので、テキストベースの審査である必要はないのではないか。
- 前任の運営委員からのコメントとして、オンラインとオンサイトでは運営方法が大幅に変わるため、状況に応じて適切な方法を選べば良いのではないかとの指摘があった。具体的には、オンサイトの場合、インフォーマルミーティングを最終日にすることはないので、初日に審査用のコアタイムを設けてその日に審査結果を出し、最終日に表彰式及び受賞者記念講演という流れは踏襲できないことが指摘された。

【次回 2022 年年次大会に向けて】

引き続きポスター発表での審査を行う。コアタイムを分離する方式や受賞者記念講演については継続してよいが、オンラインかオンサイトかで状況に応じた運営を行うことで了承された。

13. 今後の領域 7 の運営に関して【審議事項】

- ここ数年で物理学会会員が大幅に減少し、また領域 7 での発表件数も減少傾向にある。今後領域 7 を盛り上げていくためには、運営員でこの状況を分析し、何等かの方策を講じる必要がある。
- その第一歩として、領域 7 で発表件数の増えている有機導体のトポロジカル物性に関して、新たにキーワード一覧に「トポロジカル物性」（英: Topological properties）を加え、このキーワードを選んだ講演は領域 4, 8, 9 との合同セッションテーマ「トポロジカル表面関係」を設定できるようにする。これによって領域間の議論が活性化することを目指す。このことについて、当該領域のインフォーマルミーティングに諮っていただき、すでに了承を得た。

【審議事項】

- 新しいキーワードを設定し、合同セッションテーマ「トポロジカル表面関係」の設定を可能にすることについて議論した。

【意見】

- 合同セッションの設定には複数の賛同意見。
- 関連して、他領域で領域 7 と関係の深い発表をしていることがあるので、そのような発表が領域 7 での講演あるいは領域 7 との合同セッションとして講演されるよう促す取り組みをすべきだという意見。

【次回 2022 年年次大会に向けて】

キーワード一覧に「トポロジカル物性」（英: Topological properties）を加え、このキーワードを選んだ講演は領域 4, 8, 9 との合同セッションテーマ「トポロジカル表面関係」を設定できるようにする。今後もキーワード一覧と合同セッションについて随時見直し、領域 7 の講演が活性化するよう継続して取り組む。